

(3) 令和6年中の特徴

救急出場件数は、4年連続で増加しており、搬送人員を年齢別割合でみると、65歳以上の高齢者は57.7%で、前年より1.9ポイント増加しました。その他、成人（18歳から64歳）は33.3%で、前年より0.8ポイント減少、少年（7歳から18歳未満）は3.2%で前年より0.1ポイント減少、乳幼児（7歳未満）は5.8%で、前年より1.1ポイント減少しました。

(4) 年末年始の餅による事故

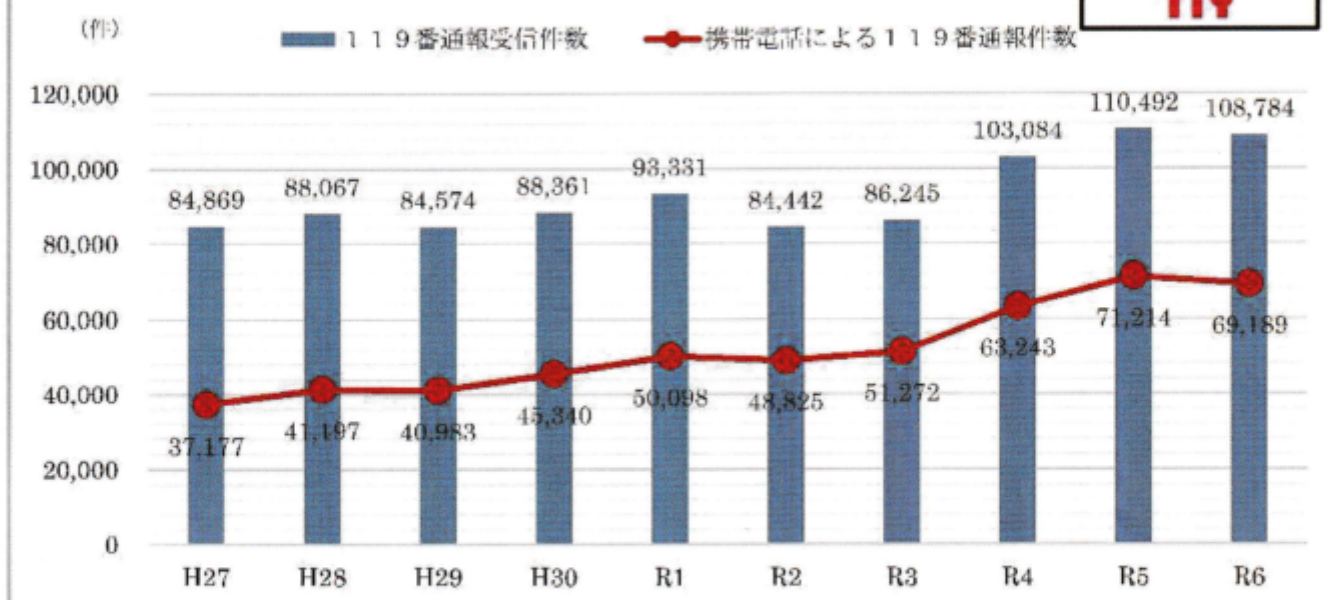
年末年始（令和6年12月29日から令和7年1月3日まで）に餅を喉に詰まらせて救急搬送された件数は3件で、前年同時期は1件となっています。

3 119番通報受信状況

- ・令和6年中の119番通報受信件数は、108,784件で、前年と比べて1,711件（1.55%）減少し、1日平均の受信件数は、約297.2件（4分51秒に1件）でした。
- ・また、携帯電話による119番通報は、69,189件（全体の63.6%）で、前年と比べて2,027件減少しました。



過去10年の119番通報受信状況



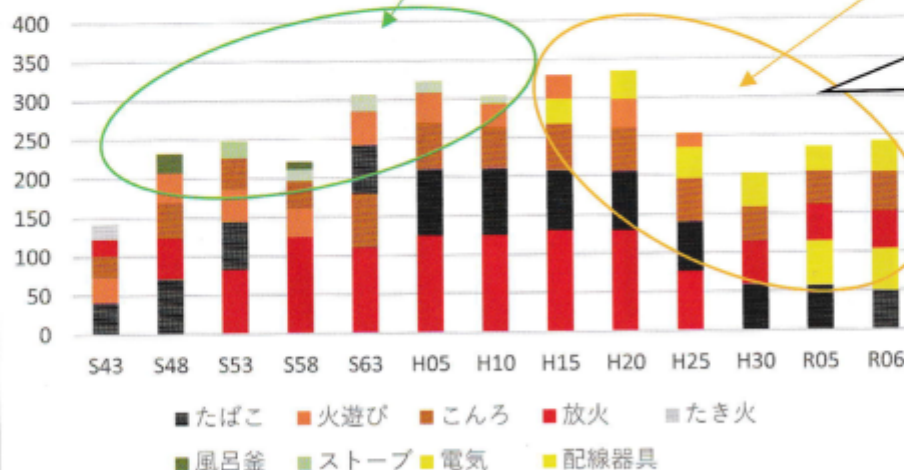
4 火災の原因及び件数の推移について

- ・昭和43年、48年頃は、放火の件数は徐々に増えており、昭和51年から令和2年までは放火が1位、2位を独走していました。
- ・昭和から平成初期は、時代を反映してストーブや風呂釜などの裸火を使用する機器を原因とした火災が多い傾向にありました。
- ・平成中期からは裸火に代わるエネルギーである電気に関係した火災が増加しており、令和5年には電気機器と配線器具を合算すると火災原因の第1位になります。
- ・しかし、こんろやたばこなどは常に火災原因の上位であり、電気も使用方法や管理に起因するものが多いので、火災を減らすためには皆様一人ひとりが火や電気を取り扱う際の注意を怠らないことが重要となるでしょう。

昭和43年から令和6年までの火災原因及び件数の推移

順位	項目	S43	S48	S53	S58	S63	H05	H10	H15	H20	H25	H30	R05	R06
1	原因	たばこ	たばこ	放火	放火	放火	放火	放火	放火	放火	放火	たばこ	たばこ	電気機器
	件数	41	71	83	124	110	125	125	131	130	77	59	57	53
2	原因	火遊び	放火	たばこ	火遊び	こんろ	たばこ	たばこ	たばこ	たばこ	たばこ	放火	電気機器	たばこ
	件数	33	53	62	37	69	85	85	76	75	63	55	57	50
3	原因	こんろ	こんろ	火遊び	こんろ	たばこ	こんろ	こんろ	こんろ	こんろ	こんろ	こんろ	放火	こんろ
	件数	27	45	41	35	63	60	53	60	56	55	44	47	50
4	原因	放火	火遊び	こんろ	ストーブ	火遊び	火遊び	火遊び	電気	火遊び	電気	配線器具	こんろ	放火
	件数	21	39	40	15	43	38	30	32	37	40	22	42	49
5	原因	たき火	風呂かまど	ストーブ	風呂かまど	ストーブ	ストーブ	ストーブ	火遊び	電気	火遊び	電気機器	配線器具	配線器具
	件数	20	24	22	10	22	15	11	30	36	18	21	32	39

昭和43年から令和6年までの火災原因と件数の推移



時代の移り変わりとともに、裸火による火災が減少し、電気火災が増加してきました。



5 消防局からのお願い

(1) **電気火災**（電気機器、配線器具、電灯・電話等の配線、電気装置に起因する火災）が、近年、急増しています。「電化製品は、取扱い説明書どおりに使用する。」、「モバイルバッテリー等のリチウムイオン電池は圧力・衝撃を与えず、変形しているなどの異常があれば使用を中止する。」、「電気コードが傷んでいる場合や、プラグが変形している場合は使用を控える。」、「プラグはしっかりと差し込んだ状態で使用する。」等の基本的な対策をお願いします。

(2) **たばこ**は、「灰皿には水を張り、確実に消火する。」、「ポイ捨てはしない。」等、日頃から喫煙マナーを守るようにお願いします。**こんろ**は「調理中に目を離さない。」等の基本的な対策をお願いします。

(3) **放火**は、「家の周りは整理整頓し燃えやすいものを置かない。」、「ごみは決められた日の朝に出す。」等、放火されない環境づくりに御協力をお願いします。

(4) **住宅火災による被害の軽減**に向けて、「住宅用火災警報器」の設置及び維持管理をお願いします。いざというときに正しく作動するよう、定期的に作動確認を行うことを習慣づけてください。

(5) **救急車の適時・適切な利用**に御協力ください。

急な病気やケガをしたときに、「救急車を呼んだ方がいいのか」、「今すぐ病院に行った方が良いのか」などで迷った際は、電話でアドバイスを受けることができる、かながわ救急相談センター（＃ 7 1 1 9）を御利用ください。

川崎市救急医療情報センター（0 4 4 - 7 3 9 - 1 9 1 9）でも、24時間体制で医療機関を紹介しているほか、医療機関への交通手段がない場合にタクシーや民間救急車を案内する「サポート救急」という制度もありますので、こちらも御活用ください。

併せまして、川崎市ホームページにて「川崎市救急受信ガイド」を提供しておりますので、救急車の適時・適切な利用をする際の判断材料として御利用くださいますようお願いいたします。

「電気火災」が多発しています！

電気火災は近年、増加傾向

電気火災とは、その名のとおり、電気機器などが原因で発生する火災ですが、近年、増加傾向となっています。

川崎市内における過去10年間の電気火災件数



主な電気火災の発火原と防ぐポイント

川崎市HPの「電気火災が多発しています」も御覧ください。⇒
<https://www.city.kawasaki.jp/840/page/0000152094.html>



■ 1位 電気コード (87件)

- ・電気コードを束ねたり、重いものの下敷きになっている状態で使用しない。
- ・電気コードが傷んでいる場合は使用を控える。



■ 2位 電池 (83件)

- ・リチウムイオンバッテリーに衝撃が加わることで火災になることがあるので、日頃から取扱いに気をつける。
- ・電池を使用する製品は、取扱説明書どおりに使用し、純正品のバッテリーを使用する。
- ・異常がある場合は使用をやめて、メーカーや販売店に相談する。



■ 3位 プラグ (80件)

- ・定期的にプラグを抜いて、付着したほこりなどを掃除する。
- ・プラグはしっかりと差し込んだ状態で使用する。
- ・プラグに変形がある場合は使用を控える。

